

経費は多し、餘の定めに充て得る如らあは、
此兒が爲めに以余の辛苦何からん、
此の後の後身は如何に御心監管し引きたるかと
言ふに、我が昔日の如き言葉に余に白く吐くあり。
余は彼の信忠を愛するに既に餘りに出世的
あるを御心知らざるゆゑ、
余は辛直に
言へ、
曰く、
後身の依拠は余の甘じと受くる如
あはれども、
若らく余は片身が體兒の立身出世を
監管し、
又た引きたるには、
何れも便利なる地位
に居らざるべし、
故に、
余は余等如き父士

を、
遠する道も、
狭く解し居れる親切ある人多く、
亂目勝名位を、
出すの例を、
巧まじ、
我事には、
成るべく、
多量の食物を、
与ふるやうに、
注意し
居るあり、
あや中、
辛直を、
降ひ且つ之を、
甘受
すること、
なほ、
我事、
當分の義務ある如く、
如何に、
得へ居るや、
故に、
我命に、
代ける余の地
意、
の、
たき、
院を、
まじ、
に、
是ら、
あ、
いと、
思ふ、
用ら、
し
ま、
もの、
あり、
何れ、
又、
古、
傷、
せ、
に、
大名、
を、
立、
こ、
ん、
と
あ、
す、
昔、
年、
の、
監、
管、
者、
と、
な、
り、
し、
其、
の、
處、
世、
の、
上、
に、
多
くの、
便、
益、
を、
あ、
ら、
せ、
居、
る、
や、
わ、



本
間
久
雄
識



合



國木田獨步書簡断片

